

照葉樹林だより

69
No.
2024.12.20



照葉樹林と落葉

綾照葉大吊橋周辺(2012年11月:写真家 黒木一明氏)

綾プロ20年を迎えるにあたって … 2-5p

獣害駆除で森とくらしを守る…… 6-7 p

お知らせ・事務局だより …… 8p

発行:一般社団法人 てるはの森の会

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号

TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp ホームページ: <http://www.teruhanomori.jp> (Xでも発信中!)

「綾の照葉樹林プロジェクト」は、日本最大級の面積を誇る綾の照葉樹林の保護・復元を目指す、官民協働のプロジェクトです

この第一弾として、照葉樹林ガイドを養成しようという計画が持ち上がった。署名活動期間中、いろいろな応援メッセージをいただいたが、中には厳しいものがあった。「照葉樹林って国語辞典にも載っていないのに何でそんな言葉使うの？照葉樹林の定義を説明してください。」という一本の電話が事務局にあった。署名活動をやっている我々としては「照葉樹林」は当たり前のこととして活動していたが、定義を説明しろと急に言われても、すぐに説明できなかった。

そんな経験から、照葉樹林について学び、森を訪れる人にその価値を説明できる人材をつくろうという目的で「照葉樹林ガイド・ボランティア養成講座」を開講する。綾町の元・照葉樹林文化官推進専門監の河野耕三氏をメイン講師に宿泊研修を含む全6回の講座を募集した。30名を超える受講生が集まり、その内、20名近くがガイド・ボランティアとして登録しガイドの活動が始まった。

2003年11月には、宮崎照葉樹林ネットワーク事務局である「NPO法人 宮崎文化本舗」が、環境省の主催する「平成15年度NGO/NPO・企業の環境政策提言」に「照葉樹林の回廊（コリドール）構想に関する調査・研究基本計画の策定」というテーマで応募し、優秀に準ずる提言として選定された。少しずつではあるが周囲の「照葉樹林」に対する評価が変わってきた。



ガイドボランティア養成講座（2004年11月7日）



綾プロ準備会（2005年2月21日）

そんな時に、九州森林管理局では群馬県みなかみ町を中心とする赤谷の森で2003年11月に発足した「赤谷プロジェクト」のような人工林から天然林への復元、生物多様性の保全に取り組むプロジェクトを九州管内で対応できる場所を探していた。地元の協力を必須条件として地域住民が林野庁と一緒に取り組めるエリアはそう多くはない。九州森林管理局の当時の計画課長は対応できるエリアを探していた。どこかにいいエリアはないか？いろいろな関係者に相談をしていた。そんな時、「綾の森を世界遺産にする会」（宮崎照葉樹林ネットワーク）を推したのは、皮肉にも九州電力の人だった…。

2004年初頭に、九州森林管理局から一本の電話が事務局に入った。綾の森を中心に「赤谷プロジェクト」の九州版ができないかという相談がしたいという連絡が入る。上野代表も「照葉樹林の回廊構想」を実現するためには、一度九州管理局に行って相談をせねばならないというタイミングだったので、この話はとんとん拍子で進んでいく。



綾の照葉樹林プロジェクト調印式（2005年5月28日）

■ 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（通称：綾プロ）の開始

2005年3月には、綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画が取りまとめられ、同年5月28日には九州森林管理局、宮崎県、綾町、公益財団法人 日本自然保護協会、そして“てるはの森の会”の五者で計画に賛同する協定者としての調印式が綾町で執り行われる。

“てるはの森の会”は「宮崎照葉樹林ネットワーク」の中で、綾のエリアに特化した団体としてこのプロジェクトを遂行するための民間部門としての役割を果たすために新たに作られた組織である。

九州森林管理局からのラブコールが来てから半年足らずで、協定を結ぶのは早急過ぎないか？もう少し議論を重ねた方がいいのではないかという意見もあったが、九州森林管理局の担当者が「おそらく自分たちは、あと半年足らずで異動になります。それから人が変わったらまた時間がかかるので、先に協定を結んだ方がいいと思います！」という一言で、俄然スピードが上がっていった。宮崎県の方は鉄塔建設反対をやっていた「綾の森を世界遺産にする会」を母体とする組織と協定を結ぶのは如何なものかという意見もあり、協定式の参加がギリギリまで決まらなかったという経緯もあったが、どうにか無事に調印式を終えることができた。

協定を結んだものの、役場職員も含め地域住民たちにとっては行政のトップ同士で協定を結んで始めたことで、自分たちの暮らしと直結したものとして感じることはなかった。元々は九州で一番出荷の多い林業の産地で、照葉樹を伐り販売していたことで生計を立てていた町なので、照葉樹林の価値が、それ程高いと感じる人たちは少なかった。

そこで綾プロの内容や活動を地域住民が学ぶ機会を作っていこうという目的で、月に1回集まって森と地域づくりに関して学ぶ「地域づくりワーキング」を2005年秋から始める。

そこで話題に上がったのがユネスコの「MAB：人間と生物圏」という制度であった。世界自然遺産候補地検討会の委員でもあり、日本自然保護協会理事の大澤雅彦東京大学教授が話された内容は、地域づくりワーキングのメンバーに希望を与えることになった。世界遺産の登録は無理であったが、人間と自然が共存し繁栄を目指す「MAB：人間と生物圏」は、綾に合っているのではないかと話から、「MAB：人間と生物圏」に学び始め、地域づくりワーキングの提言としてまとめ、当時の綾町長である故・前田穰氏に「綾町」は「MAB：人間と生物圏」を目指すべきであるという文書を手渡した。



提言の提出（第12回綾プロ連携会議）2010年9月9日



綾ユネスコエコパーク登録記念式典（2012年9月1日）

■「ユネスコエコパーク」登録への挑戦

綾プロの活動をしながら、綾町では河野照葉樹林文化推進専門監を中心に、「MAB：人間と生物圏」の登録を模索し始める。「BR：Biosphere Reserves」は、ユネスコの「人間と生物圏計画」(Programme on Man and the Biosphere：MAB計画)に基づいて成立した国際的な指定保護区の名で生物圏保存地域とも呼ばれ、日本国内ではユネスコエコパークの呼称が用いられている。この制度は1976年に開始されており、1980年に日本から「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」の4地域が選ばれており、実に30年以上新たな申請が出されていなかった。

2010年10月に名古屋市で開催された「国連生物多様性の10年（2011年から2020年まで）最終年事業」のフォーラムで来日した、ユネスコのMAB委員会の担当者を、日本自然保護協会のネットワークで綾まで足を延ばしてもらい、地域づくりワーキングのメンバーが中心となり、綾が如何に生物圏保存地域に適しているかをアピールした。河野照葉樹林文化推進専門監らを中心とする役場職員と地域住民の懸命な努力により2011年9月には日本ユネスコ国内委員会第23回MAB分科会において推薦が決定され2012年7月に正式に登録された。

■これまでの20年、これからの20年

順風満帆に全てが進んできたわけではない。山あり谷ありの20年であったが、綾プロの中での「てるはの森の会」はある程度の成果を出してきたのではないかと自負している。しかしまだまだ解決せねばならない課題は多い。人工林から天然林への変換は、鹿や猪が新芽を食べたり荒したりすることで、思ったようには進んでいない。

また環境教育エリアを指定しているのに、本格的な活用が出来ていない。これは様々な複合要因によって困難な状況にある。また行政職員は2年程度で人事異動があるため、話が進んできても異動のたびに話が振り出しに戻ることも定期的に発生している。「100年かけて照葉樹の森を復元しよう」という20年前の熱い意気込みが綾プロ全体から感じられなくなっているのも事実である。

この20年に、上野登代表をはじめ、坂元守雄さん、小川渉さんなど会の創設メンバーが次々と鬼籍に入られ、自分自身も還暦を過ぎ体力的にも不安を感じ始めている。

次世代への継承という大きな問題が現実的に押し掛かっており、それをどう克服していくか、5者の役割も含め新たな展開へステップアップしていく必要性に迫られている。

10年ひと昔というが、100年続く森づくりの道のりは、まだまだ険しいものがある。10年間で社会は大きく変化していくが、ひとつの事象が30年続けば価値観は定着するのではないかと考えている。これからの10年、そして20年、一步一步足元を確かめながら前に進むことを今後も多くの方々のご支援や叱咤激励を受けながら続けて行くことが大切だと感じる今日この頃である。

(いしだたつや・宮崎市)

獣害駆除で森とくらしを守る

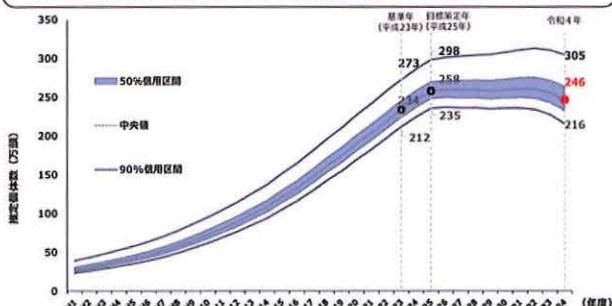
桐谷冴香(一般社団法人てるはの森の会 事務局)

近年、日本では豪雨や台風の直後に土砂災害が多く起きています。今年の7月に滋賀県と岐阜県の県境にある伊吹山で土砂災害が3度も起き、人家まで被害が及びました。この土砂災害が、実はある動物によって引き起こされたことがわかりました。その動物とは、ニホンジカです。土砂災害とニホンジカにどのような関係があるのでしょうか。

ニホンジカは爆発的に生息数が増加し、分布域も拡大しています。環境省ホームページの「全国のニホンジカ及びイノシシの個体数推定の結果について」の資料を見ると、平成1年(1989年)の時点ではニホンジカの推定個体数は50万頭を下回っています。それに比べ、令和4年(2022年)の推定個体数は約246万頭となっています。約30年間でシカの個体数が5倍以上に増えていることが分かります。

1. ニホンジカ(本州以南)の個体数推定の結果

- 令和4(2022)年度末におけるニホンジカ(本州以南)の推定個体数は、中央値で約246万頭(90%信用区間:約216~305万頭)となりました。
- 依然として高い水準にあるため、引き続き捕獲強化を進めていく必要があると考えられます。



※ 令和4(2022)年度末の自然増加率の推定値は、中央値1.19(90%信用区間:1.16-1.22)
 ※ 令和4(2022)年度の北海道の推定個体数は、東部地域32万頭、北部地域19万頭、中部地域1万頭、南部地域3~18万頭(北海道産肉)

出典:「全国のニホンジカ及びイノシシの個体数推定の結果について」(環境省)

この増えすぎたシカが、集団で森林の植物を食べ尽くす「食害」が日本各地で進んでいます。シカは地表の植物や、木の新芽、届く範囲の木の枝葉や樹皮などを全て食べてしまいます。



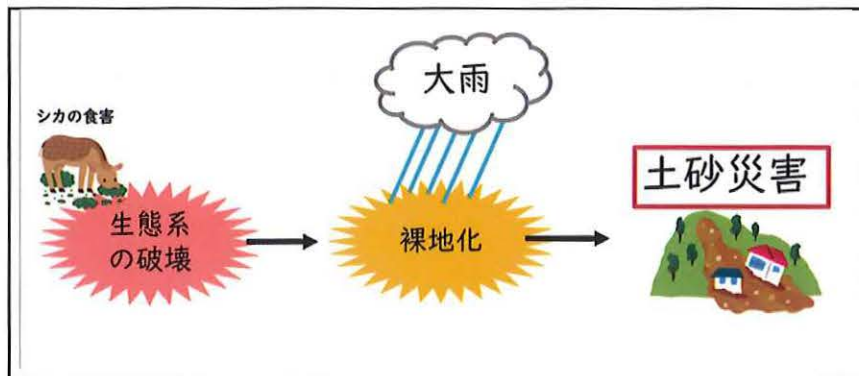
エゾシカの群れによる食害(北海道えりも町)
 出典:「森林における鳥獣害対策について 令和6年10月」(林野庁)

そのため、森林の地表の植物がすべてなくなったり、シカが好まない植物だけが残された生物多様性の損失した森になったり等、森林の生態系が破壊されています。そして、地表の植物が食べつくされることで土壌がむき出しになる「裸地化」が起こります。裸地化すると、その土地の保水力が低下してしまいます。



出典:「森林における鳥獣害対策について令和6年10月」(林野庁)

生態系が破壊され裸地化した土地に雨が降ると、雨が直接地面に当たり、土壌は崩れて流されてしまいます。これが土砂災害につながってしまうのです。伊吹山も、シカの食害で生態系が破壊され裸地化が進んでいました。そこに大雨が降り、土砂災害が起こってしまったのです。このようにシカの食害で生態系が破壊され裸地化した森は土砂災害が起きやすくなってしまいます。シカと土砂災害の関係がお分かりいただけただけでしょうか。



「綾の照葉樹林プロジェクト（綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画）」は来年で20周年目を迎えますが、未だ照葉樹林への復元が上手く進んでいません。その理由の一つが、やはりシカによる食害なのです。人工林を間伐し、そこに落ちた照葉樹の種が芽生えても、次々にシカが食べ

逆に言えば、生態系が保全されている森は土砂災害が起きにくいのです。つまり生態系を保全・再生することは、災害防止につながるのです。生態系の保全・再生を通じて、防災・減災をする取り組みのことを、Eco-DRR (Ecosystem-based Disaster Risk Reduction) といいます。近年、日本国内のいろいろな地域で取り組まれています。

シカの数が正常に戻れば、生態系が再生され、災害を起きにくくすることができます。ですので、猟師の方々が日々狩りをしてくださることは生態系の保全につながり、災害を防ぐことになるのです。懸命に生きるシカたちの命を奪うことは残酷なようにも思えますが、シカを含め他の動植物と私たち人間が共に生きていくためには必要な行動なのです。シカの肉を食べたり、皮や角でできた製品を使ったりすることにより、奪った命を無駄にしないことが大切です。

つくしてしまっているのです。毎年行う植生調査でも、林床には新しい照葉樹の稚樹はほとんど見られません。

そこで新たな取組として、関係機関でシカ被害対策協定を締結し効果的なシカ捕獲に取り組み始めました。また、照葉樹林構成種をシカから保護する植生保護柵の設置をボランティアの方々と協力して行っています。

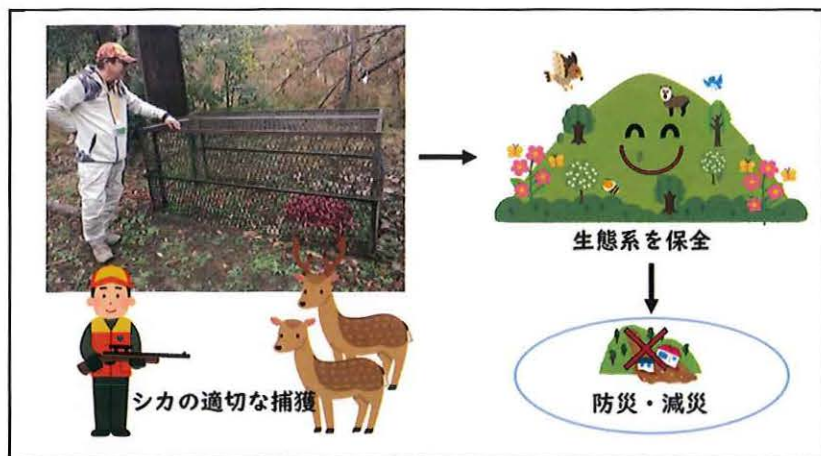
獣害駆除は森を守り、さらには防災にもなります。獣害駆除で森とくらしを守ってくださっている人々がいることに感謝をしたいと思います。

昔の豊かに広がる照葉樹林を知る人は少なくなりましたが、そのかけがえのない素晴らしい森を守る一番の力は、地元でこの森を良く知る人々の郷土愛だと思います。そのことを大切にして、照葉樹林の魅力の発信に尽力していきます。

(きりやさえか・綾町)

【参考文献】

環境省HP 報道発表資料 全国のニホンジカ及びイノシシの個体数推定等の結果について | 報道発表資料 | 環境省 (2024年11月28日に利用)
 環境省HP 環境省Webマガジンecojin Eco-DRR (エコ ディーアールアール) | ecojin (エコジン) : 環境省 (2024年12月9日に利用)
 「森林における鳥獣害対策について 令和6年10月」(林野庁) (Microsoft PowerPoint - iŠkJQ%oãc«³pVkdDf (ã, t10 .pptx) (2024年12月9日に利用)
 伊吹山の土石流災害、シカの食害原因か、... 山肌露出の「裸地化」進行で保水力低下. 読売新聞. 2024-07-24, 読売新聞オンライン. <https://www.yomiuri.co.jp/national/20240724/>
 OYT1T50135/?fbclid=IwZXh0bgNhZWQCMTEAAR1_rM4WBcZYxxELNbdK1t53zpKQ1sRkKvFi-muUJhISKkgOQ72E1-C TLIs_aem_d31eYxYy5FaklP2BorEHvA (参照2024-10-12).





「おとなの山学校」ツアー 参加者募集！

「おとなの山学校」では、綾の自然体験と食を楽しんでいただくことを目的とした散策ツアーを行っています。「猟師と歩く綾の山里コース」上畑地区を2時間半ほどかけ散策後、上畑公民館で綾料理の昼食。散策ではイノシシ毘、サル毘などの見学もあります。回を重ねるごとに料理がバージョンアップしています！



2月冬ツアーの料理

のんびり説明を聞きながら散策し、美味しい料理を味わってみませんか！

開催日 2025年1月19日（日）

9時～13時（予定） 参加費：5,000円 学生料金：2,000円

集合場所：綾町上畑公民館

◆問い合わせ・申し込み先 （一社）てるはの森の会

TEL 0985-35-7288 FAX 0985-35-7289

Mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp

事務局 だより



◆てるはの森の会 関連行事

終了した行事

- 9月 13日(金) 綾プロ20周年事業ワーキング
- 17日(火) 地域づくりワーキング
- 10月 11日(金) 地域づくりワーキング
- 17日(木) 損保ジャパン助成金キックオフM
- 20日(日) 大人の山学校秋ツアー
- 21日(月) 第3回連絡調整会議
- 22日(火) ガイド
- 31日(木) 大人の山学校公立大学生ツアー
- 11月 13日(水) 綾プロ20周年事業ワーキング
- 20日(水) ガイド
- 22日(金) ガイド
- 23日(土) 自然観察指導員九州協議会
- 29日(金) レシピ本検討委員会
- 12月 12日(木) げんだぼの森草刈り作業
- 13日(金) レシピ本検討委員会
- 15日(日) 多古羅散策(地域づくりW)
- 17日(火) 第4回連絡調整会議

今後の予定 (予告なく変更になる場合があります、ご了承ください。)

- 12月 23日(月) 川中自動カメラ電池替え
- 27日(金) ガイド
- 1月 9日(木) 地域づくりワーキング
- 19日(日) 大人の山学校ツアー
- 20日(月) 第5回連絡調整会議
- 24日(金) レシピ本検討委員会
- 2月 5日(水) ボランティア作業

◆綾照葉大吊り橋遊歩道通行止めのお知らせ

8月に発生した、台風10号の大雨により、遊歩道の多くの箇所が壊れ、滝付近の橋も流されてしまいました。被害は甚大で、現時点では通行できないと報告を受けています。

吊り橋は通行できます。また、照葉樹林ガイドは、吊り橋往復と川中自然公園のイチイガシ巨木までの代替えコースをご用意しましたので、ご利用ください！

ご寄付をいただきました。大切に使用させていただきます。

(敬称略 令和6年12月20日まで)

前田草子 吊り橋募金

会員募集中!

(一社)てるはの森の会では、綾の照葉樹林プロジェクト(綾プロ)にご協力いただける会員を募集しています。会員になっていただくと、照葉樹林や綾プロに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年3回お届けします。綾プロが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問い合わせください。

年会費

- 個人会員 2,000円
- 団体会員 5,000円
- 法人会員 10,000円